

## 令和6年度 第11回日展 大臣賞受賞者一覧

### 文部科学大臣賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
日本画	樹の一本は一つの木 <small>き いっぽん ひと き</small>	能島 浜江 <small>のうじま はまえ</small>		会員	宮沢賢治の詩から取ったという不思議なタイトルを持った作品で、直接的な絵解ではないがそこから想を得た、どこか謎めいている若者の姿が描かれている。作者の発想のユニークさと描写力の確かさが相まって、見る者に様々な連想を誘う、チャーミングな世界である。
洋画	ECHOー裸婦と猫ー <small>エコー らふねこ</small>	寺久保 文宣 <small>てらくぼ ふみのり</small>		会員・審査員	裸婦を通して絵画とは何かを追求している作家で今回は右上後方に猫を配してバランスをとった。日本人の持っていない独特の感性で画面構成、バックの青緑・青・ピンク・黄色の色彩の配色も実に美しく見ていてどんどん想像が膨らみ絵の中の物語の世界に引込まれていく。文部科学大臣賞にふさわしい作品である。

### 内閣総理大臣賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
彫刻	風のおとー萌しー <small>かぜ おと きざし</small>	上田 久利 <small>うえた ひさとし</small>		会員	台に腰をかけ両腕をやや後ろに回して座る裸婦像。顔や胸、胴部など健康的な生命感にあふれる。吹きつける時代の風を受けながらも希望をもって良い萌(きざし)をみつめる姿は豊満で力強い。頭部から下肢にかけての姿態は長三角の形に構成され安定感を漂わせる。石膏に金彩の着色も、たおやかな生命(いのち)の輝きを覚えさせて調和している。
工芸美術	月の器・帰路 <small>つき うつわ・きろ</small>	武腰 一憲 <small>たけごし かずのり</small>		会員・審査員	雲のかかった月を天板として人とロバと犬を照らして深い影が奥行を表現し、彩やかな青色が人物たちを浮き立たせている。板作りによる陶芸作品の器であるが、絵画的表現を組み合わせることで物語を展開して見る者に心の広がりを感じさせてくれる。こうした手法は、この作者独自の世界観をみごとに表わすことに成功している。
書	花の姿 <small>はな すがた</small>	田中 徹夫 <small>たなか てつお</small>		会員	力強い漢字を駆使した仮名で、真っ白な紙に艶やかな墨線が生き生きと潤渇も程よく配置されている。行間を大きめにとることで、文字同士のぶつかり合いを吸収して、心地よい余白となっている。時に緊張し、時に立ち止まるような緩急のある運筆の息づかいを感じさせるもので、筆文字の良さが存分に発揮された書である。

## 令和6年度 第11回日展 東京都知事賞受賞者一覧

### 東京都知事賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
日本画	ごがつ かせ 五月の風に	てづか ひさはる 手塚 恒 治		会員・審査員	初夏の眩しい陽射しに目が慣れるにつれ、海辺に腰かけた男性の姿が見えてくる。遠景のヨットから机上のカップや観葉植物、貝がらなどへ、抽象的な色面構成の中から少しずつ、現実の手ざわりが現れてくる。パステルカラーのハーモニーは爽やかな五月の風を感じさせるが、作者の画想はさらに深いところを指向しているようだ。
洋画	じんせいせつけい 人生設計	た なか り な 田 中 里 奈		会員・審査員	今までの木版画のイメージと違い斬新でモダンな形と色彩が魅力的である。 力強い木版画の表現の中に自己と人間の関わりがあり、目に見えない心象表現となっている。 若い人の作品が受賞したことは日展にとって心強い。
彫刻	とき なが 時の流れに	あおやま さぶろう 青山 三郎		会員・審査員	静寂を湛えた木彫の女性立像である。破綻のないノミ跡のリズミカルな連続性は“時の流れ”を示すかのような軽快な魅力を示している。ここには直実と技法と女性が見事に調和して、ギリシア・クラシック期の神像を思わせる木彫の姿である。漱石の夢十夜とはまたちがう意味で、木彫のもつ繊細な可能性を示している作品といえよう。
工芸美術	れいこう 黎紅	かのう みちお 叶 道 夫		会員・審査員	果実にうつる朝の陽光のきらめきを切り取った作品。繊細に、そして快い変化を見せる釉色には高度な技が潜んでいる。鋭さを秘めたまろみのあるフォルムは、研ぎ澄まされた造形感覚の賜物である。ふと気付くと、いつしか美の深淵に誘われ、うつし世と幻想のあわいにただよう心持ちにさせる出色の作品である。
書	えんがいし 袁凱詩	とし もり よし き 歳 森 芳 樹		会員	元末明初に活躍した袁凱の詩を、行草書で三行にまとめた一幅である。冒頭の書き出しから落款に至るまで、流麗な筆致で書き進め、「凍てついた音楽」と喩えられる書の特質を十二分に表出している。各行の微妙な量感の差異が、全体的に立体感を醸し出し、白と黒の対比が実に美しい、訴求力の大きな優品である。

## 令和6年度 第11回日展 日展会員賞受賞者一覧

### 日展会員賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
日本画	ソロモンの指環 <sup>ゆびわ</sup>	佐藤和歌子 <sup>さとう わかこ</sup>		会員	<p>画題からも、ソロモン王の古い時代を彷彿とさせるかのような、不思議引力に誘われる作品である。</p> <p>日本の色には四十八茶百鼠の言葉があるが、我が国ならではの茶の持つ複雑な深さが画面を漂い、作者の持つ日本画の技術の確かさに裏付けされ、魅力のある作品が生まれた。</p>
洋画	9月・なごり <sup>がつ</sup>	西田伸一 <sup>にしだ しんいち</sup>		会員	<p>若い女性を室内に配し、独自の構成により、アクリル絵具と油彩の混合技法を駆使して描いている。</p> <p>人物を精緻な筆法で表わし、対照的に人物の背景を明るい色彩で平面的に処理しており、上質で清潔感のある明快な空間が表現されている。</p>
彫刻	空 <sup>そら</sup>	寺山三佳 <sup>てらやま みか</sup>		会員	<p>空という題名は多様な解釈ができる。しかし、この作品には歴史的な意味が感じられ、2人の女性の表情が空に浮き、左側の羊は、それらと共に、着衣の女性の肩にのる。空に浮く2人の女性の顔はルネサンスの天使たちの様でも、現代の娘たちの様もあり、古代美術に見る羊とともに、伝統と現代が一つの作品の中で融合していて素晴らしい。</p>
工芸美術	沼の水中木 <sup>ぬま すいちゆうぼく</sup>	横山喜八郎 <sup>よこやまきはちろう</sup>		会員	<p>青森の鳶沼の水中木に魅了され、何度も足を運び、そこに漂う野趣のある自然環境を独自のイメージでの創出により顕現せしめた快心作。</p> <p>とくに蠟染による円熟した技術を駆使した色彩の微妙な表現効果は見事である。</p>
書	重雍襲熙 <sup>ちようようしゅうき</sup>	岡野楠亭 <sup>おかの なんてい</sup>	なかほ 央	会員	<p>「重雍襲熙」の四文字を、中国の古代文字でまとめた一顆である。周囲に施した界線の中に、大小の変化を持たせた文字を絶妙なバランスで配している。古代の印章が経年によって受けた損傷の味わいを上手く各所に取り入れ、朱白のせめぎ合いがこよなく美しい。印影の左に記した二行の落款も、印刀の切れ味も実に見事。</p>